

# 北斎と津軽の関係は？

葛飾北斎の生まれた頃の割下水周辺は、幕府の下級武士たちの家や町人たちの長屋が建ち並んでいました。その中でひととき大きな屋敷が一つ、異彩を放っていました。弘前藩津軽家（津軽藩とも呼ばれます）は、現在の青森県西部に置かれた藩で上屋敷はなんと26,000m<sup>2</sup>という広大な敷地に火の見櫓までありました。現在の地図に当てはめると、北は北斎通りから南は京葉道路の車道のセンターラインまで、西は緑町公園脇の区道から東は野見宿禰神社脇の区道までということになります。

当時、上屋敷というのは全国の大名が江戸に来た時に居住する屋敷の事で、通常は江戸城の周囲に置かれていましたが、なぜか津軽藩だけは隅田川の東側に置かれました。江戸の市民も不思議がって「本所に過ぎたるものが二つあり 津軽屋敷に炭屋塩原」と謳われました（塩原とは江戸一番の燃料問屋）。

さて、ある時津軽のお殿様（越中守という官職名で記されています）が北斎に屏風を描かせようと、使者を何度も北斎の家に送りました。しかし北斎は首を縦に振りません。10日余りして一人の藩士が来て言いました。「殿様が北斎先生を招こうとしているのに、来てくださらないのは何か訳があるのでしょうか。少ないですが先ず差し上げましょう」と言って、5両を贈りました。そして、「よろしければ、私と一緒に藩邸に来てはどうですか。もし先生の描いたものをお殿様が気に入れば、必ず褒美が出ますから。」と言いますが、北斎は用事があると言って行こうとしません。数日後、また藩士が来て何度も誘いますが、北斎は行こうとしません。藩士はとうとう怒り出し、「爺さんを切って自分も死ぬんだ」と言い出したので、そばにいた人々がみんなで藩士をなだめて、何とか北斎を藩邸に行かせようとするのですが北斎は聞き入れず、「先にもらった5両を返せばよいのだろう、明日誰かに藩邸へ持って行かせる」と言い出す始末。藩士もそばにいた人々もあきれ果ててしまいました。その日はこれで治まったのですが。

数か月後、どうした事か誰も招いてはいないのにいきなり北斎が藩邸を訪れて、屏風に野

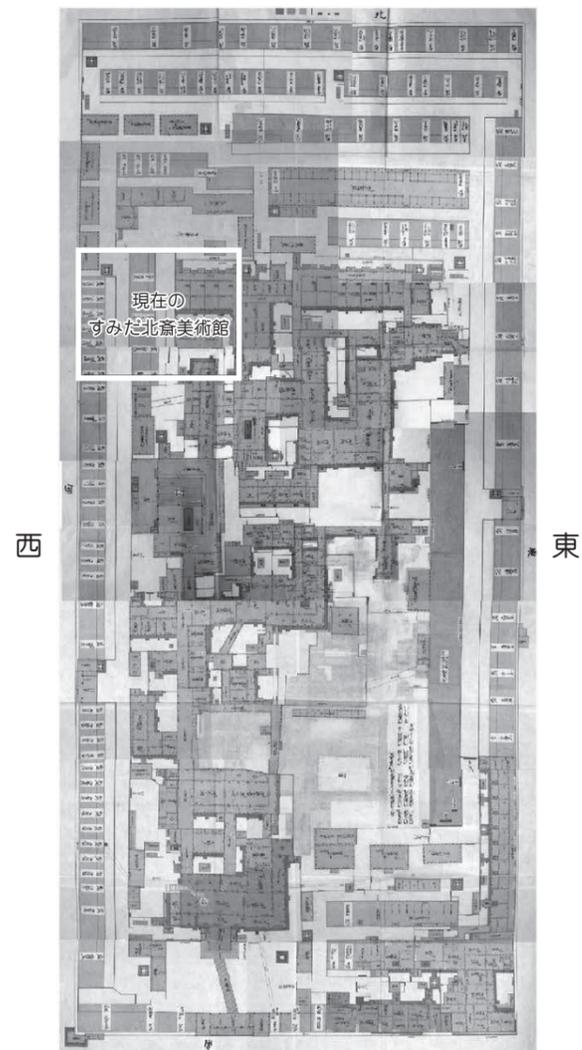
生の馬たちが群れ遊んでいる図を描きました。

どうしてこのような騒動が起きたのかはわかっていませんが北斎は、権威やお金に物を言わせるやり方に腹を立てたのではないかとされています。でも絵を描いて欲しい人がいたわけですから、最終的には描いてあげたわけですね。お殿様が初めから誠意をもって頼みに来れば、もめなかったと思うのですが。

ところでこの屏風は大正時代頃まではあったらしいので弘前の図書館に聞いてみましたが、今はないそうです。

（五味和之／前すみだ北斎美術館学芸員）

現在の北斎通り  
北



南  
現在の京葉道路  
津軽家江戸御屋鋪御指図（弘前市立図書館蔵）

# 北斎通り まちづくりニュース



No. **34**

まちづくり活動情報誌  
発行●北斎通りまちづくりの会  
電沢・北斎ネットHP <https://www.hokusai-dori.com/>

北斎通りまちづくりの会で一緒にまちづくり活動に参加しませんか？  
新メンバー募集中です。連絡先：bureau@hokusai-dori.com



## 今後の活動案内

北斎通りまちづくりの会では感染症予防に注意したうえで以下の催しを行う予定です。新型コロナウイルスの感染状況により、開催の中止もしくは延期の可能性があります。詳細は当会ホームページ (<https://www.hokusai-dori.com>) をご参照ください。

### 灯りのフェスティバル



日時：10月3日（土）16：30～20：00（荒天時中止）

場所：大横川親水公園噴水広場

本所地域は関東大震災や東京大空襲により甚大な被害を受けました。当会では毎年、災害で亡くなられた方々への鎮魂および未来の安心・安全なまちづくりへの願いを込め、キャンドルライトアップイベントを10月3日（土）に開催します。

### 北斎祭り



#### ○弘前ねぶた絵展示

9月26日（土）より10月25日（日）まで、渡辺パイプ株式会社両国ビルにてねぶた絵師（津軽錦絵作家協会会長）三浦呑龍さんによるねぶた絵の展示を行います。



#### ○弘前金魚ねぶた展示

10月下旬以降、東武ホテルレバント東京、第一ホテル両国、すみだリバーサイドホールギャラリーを巡回し、弘前金魚ねぶたの展示を行います。（日程は当会ホームページを参照ください）



#### ○まちづくり活動展示

10月24日（土）、すみだ北斎美術館講座室にて昨年の北斎祭りの様子や地域内のまちづくり活動の様子を展示します。



#### ○まちづくりシンポジウム

昨年度に引き続き、地域まちづくりとコミュニティについて研究されている筑波大学准教授で墨田区都市計画審議会委員の藤井さやか先生を交え、当会の活動の成果や課題、社会的意義などをディスカッションします。

ディスカッションの様子は、来年1月中旬に当会のホームページにアップ予定です。

主催：北斎通りまちづくりの会、「隅田川 森羅万象 墨に夢」実行委員会  
共催：墨田区 後援：墨田区観光協会  
協力：キッズサポートリマ、すみだ北斎美術館、第一ホテル両国、東京東信用金庫、東武ホテルレバント東京、弘前市首都圏キャンペーン実行委員会、渡辺パイプ株式会社（五十音順）  
特別協賛：YKK株式会社 協賛：株式会社東京鉄兼  
※「隅田川 森羅万象 墨に夢」実行委員会事務局は（公財）墨田区文化振興財団が担っています。



## 濃密な時間の積み重ねを感じる場所

# 丸い屋根の両国公会堂を覚えていますか

### 時間の積み重ね

一日は24時間、一年は365日。誰にとっても時間の進行は同じです。ところが、土地や場所に蓄積する時間は、それを受け止める人によって異なるようです。時間が止まっているかのように、今も昔も変わらない場所もありますが、濃密な時間の積み重ねを感じる場所もあります。国技館の北側、旧安田庭園に面して、2018年に刀剣博物館が開館しました。歴史をひも解きながら、その場所の時間の積み重ねを紹介します。



両国公会堂

### 丸い屋根の両国公会堂

特徴的な丸い屋根の両国公会堂を覚えていますか。両国駅から歩くと旧安田庭園の緑の奥に特徴的な丸い屋根が見えた両国公会堂（旧本所公会堂）は、刀剣博物館が建設された場所にありました。1926年（大正15年）に開館し、文化施設として活用されました。音楽会に参加したり、丸い屋根をスケッチした思い出もあります。大理石の丸柱が並ぶロビーのガラスドアを左右に開けると庭園の緑とつながり、子供心にも気持ちの良い空間が広がっていたことを覚えています。

老朽化に伴い、倉庫に転用された公会堂は、防災的にも地域のお荷物になってしまいました。しかし、竣工時の写真を見ると、外観と内部共にとても魅力的です。残念ながら公会堂は解体され、刀剣博物館が建設されましたが、公会堂建設でこの地で出会った後藤新平、安田善次郎、森山松之助の三人を紹介します。

#### 後藤新平 (1857年生まれ～1929年没)

内務大臣、外務大臣、東京市長などを歴任した政治家です。関東大震災直後に帝都復興院総裁を務め、東京の骨格を作った日本の都市計画の生みの親です。



#### 安田善次郎 (1838年生まれ～1921年没)

両替商として莫大な富を築き、安田銀行（現在のみずほ銀行）を設立した安田財閥創始者です。様々な企業の創業を支援した実業家であり、晩年は多くの社会慈善事業や大学などに多額の寄付を行いました。



#### 森山松之助 (1869年生まれ～1949年没)

東京帝国大学卒業の建築家です。1906年から台湾へ渡り台湾総督府など多くの官庁建築を手がけました。その後日本へ帰り、重要文化財の諏訪片倉館など多くの建築の設計を行いました。



### 大名屋敷から安田家邸宅へ

明暦の大火（1657年）の後、江戸の町では都市改造が行われ、本所も本格的な市街地化が進みました。隅田川の水運を利用して幕府は御竹蔵を設けました。川岸は眺望も開け、加納家、松平家、松浦家、本庄松平家等の大名屋敷が並び、その本庄松平家下屋敷に設けられた潮入池泉の回遊式庭園が旧安田庭園のルーツです。明治維新を経て、この下屋敷は池田章政侯爵邸となり新興財閥として財を成した安田善次郎がこの地を含め広大な敷地を購入し、屋敷を建設しました。

### 三人の出会い

医師であり公衆衛生の専門家であった後藤新平は民政局長として台湾へ赴任し、アヘン対策や都市整備、官公庁舎の建設等につとめます。後藤の勤めによって、森山松之助は台湾へ渡り、官公庁舎（台湾総督府など）の設計などに尽力します。台湾を舞台にして、後藤は森山が活躍する場を提供しました。その後、東京市長となる後藤は都市改造を提唱し、都市計画の生みの親として東京市政調査会を立ち上げます。ここで安田善次郎は後藤に出会います。後藤の理念に賛同した安田は支援を申し出て多額の寄付を約束しましたが、その後まもなく大磯の別荘で暴漢に襲われ、亡くなります。

### 関東大震災から両国公会堂建設へ

大正12年（1923年）関東大震災が発生します。かつての御竹蔵に多くの住民が避難しました。しかし地震に伴う火災により下町のほぼ全域が焼失し、この場所で三万数千人が亡くなりました。震災復興を目指し帝都復興院を立ち上げた後藤は、多くの技術者と復興計画を練り上げました。安田の約束は二代目善次郎により実行されました。多額の資金と安田家の土地が寄付され、旧安田庭園と両国公会堂となりました。この公会堂の設計者として森山が指名されました。

### 公会堂のデザイン

森山は敷地の形状を生かし、交差点に正面を向けてアプローチ広場を設けました。この配置は、台湾で数多くの公共建築を手がけた森山ならではのものでした。正面玄関は威厳のある様式建築のデザインでまとめられ、二階にホールを配置し、一階は玄関から庭園へとつながる魅力的な構成でした。東京大空襲で下町は再び焦土と化したのですが、この周辺は免れることができました。庭園と公会堂は同愛記念病院の付属施設として米軍に接收され、米軍はダンスホールとして公会堂を使用しました。その後1967年に墨田区に移管され、改修工事を経て区民の施設として利用されました。しかし、正面玄関付近は大きく改修され、森山のゴシック風デザインを活かすことはありませんでした。



刀剣博物館

### 刀剣博物館への建替え

建築家榎文彦の設計により公会堂の跡地にモダンな外装の刀剣博物館が2018年に開館しました。正面玄関の位置と左右対称のデザインは公会堂の配置を踏襲したものです。展示コーナーには、この場所における濃密な時間の積み重ねが展示されています。かつての大名屋敷が変遷を重ね、刀剣博物館が開館したわけですが、この場所の不思議なめぐりあわせを感じます。

明暦の大火  
1657年

江戸

明治維新  
1868年

明治

安田善次郎土地を購入  
1891年

安田善次郎の死  
1921年

大正

関東大震災の発生  
1923年

本所公会堂の開館  
1926年

名称を両国公会堂に改称  
1941年

東京大空襲  
1945年

昭和

進駐軍の接收解除  
1954年

墨田区への移管  
1967年

墨田区による改修工事  
1968年

両国公会堂の開館  
2011年

平成

刀剣博物館の開館  
2018年

令和

文章：岸成行／北斎通りまちづくりの会

参考：「後藤新平」越澤明 筑摩書房  
「銀行王 安田善次郎」北康利 新潮社  
「両国公会堂パネル展図録」墨田区  
「両国公会堂実測調査報告書」早大中川武研究室